

多忙でなかなか休みの取れない長野さんが景色の美しい場所へ出掛けて写真や動画を撮るのがリフレッシュになる。写真は沖縄のビーチでの一コマ。国東市長崎鼻の花や竹田市七ツ森古墳群の彼岸花など県内外の絶景スポットで施術を行う様子はインスタでも発信する。

OFF



世界一の手技でオイルマッサージを施す。香りはお客さんの好みで。



1.思わず「ただいま」と言いたくなる和の趣のサロン。動物好きの人には愛犬ココロの出迎えやウーパールーバーの水槽も人気。2.世界大会にも同行したスタッフの森本さんと。会場で結果発表を待つ長野さんを「大丈夫」と力づけた心強い存在だ。3.パリで開かれたセラピスト世界大会「MEILLEUR SPA PRATICIEN INTERNATIONAL FRANCE」の優勝メダルと表彰状。

もみ処 癒心 代表 セラピスト

長野志保さん

【私のモットー】

一歩の勇氣

Personal Data

- Q1 楽しいと思う時間は？
お客さまとお話をしながらもみほぐしているとき。幅広い年齢層の方とお話をする時間が一番楽しいです。
- Q2 あなたの宝物は
セラピスト世界大会の優勝メダルです。
- Q3 最近うれしかったこと
前の質問と重なってしまいますけど、世界一になったことですね。



別府市の出身。調理師免許を取得し、20代で飲食店を経営した経験を持つ。子どもを授かり、調理の仕事と育児の両立に厳しさを感じて店を閉じた。次に何をしようかと考えたとき、子どものころから親や友人の体をもみほぐして喜ばれていたことを思い出しマッサージの世界へ。大分市内の大型サロンで修業を重ね、人気セラピストとして多くのお客さんから指名されるようになった。独立開業に期待を寄せる声に背中を押されたこともあり、令和3年(2021年)に『もみ処 癒心』を開いた。

サロンとして使っているのは大分市下郡の静かな住宅街の一角にある戸建て民家だ。「最初は古民家を考えていましたが大分市内ではなかなか難しく。たまたまこの家の前を通りかかっただけに入ったんです」。サロンに一歩足を踏み入れると、畳敷きの和室に和傘や帯などが飾られ、ジャパニーズテイストの落ち着いた空間が広がる。もみほぐし、オイルマッサージ、タイ古式マッサージをメインに、足つぼ、カップリング、かつさ、よもぎ蒸し、モリಂಗア蒸しなどを行い、セットのメニューもそろそろ。まずその人の体調やつ

らい部位などをカウンセリングで聞き取った後、施術に入る。疲れを感じて体が硬くなっている人にはもみほぐしとアロマのセットがお勧めだそう。「体だけでなく心のリラクゼーションも大切ですよ。もんでいる最中にお眠りになるお客さまもいらっしゃいますし、ストレッチがたまり気味の方はお話をたくさんお聞きすることもあります」。

4年前に同大会で世界一になった川上拓人さんのスクールで学び、九州初の認定講師の資格を得てその大分校長も務める。後進に技術を伝える立場となり、「世界レベルの手技を多くの人にお伝えできれば。福岡などでも出張施術を行っています。今後、県内外で幅広く講座やスクールを開いていきたい」と抱負を語る。中学生になった2人の娘に自らの精進する姿を示すことで何かを感じ取ってくれればと話すときは母の顔を見せる。「私、やりたいことがあるとすぐ行動を起こすんです。まず一歩出そうって生徒さんたちにも話します」。何事にも最初の一步を踏み出す勇氣を持ったからこそたどり着ける境地がある。長野さんの夢を追う旅はまだ続く。

Nagano Shiho

昭和60年(1985年)、別府市出身。調理師の免許を取得し、20代で飲食店を経営。カメラマンのアシスタントやモデル、Web制作にも従事した経験を持つ。大分市内の大型サロンでセラピストとして修業を重ね、指名ランキング1位を3年連続で記録した。令和3年(2021年)、『もみ処 癒心』を開業。昨年、フランスで開かれたセラピスト世界大会に初出場し優勝。ITA認定講師、ITA大分分校長。タイ古式、かつさ、ピラティス、ボディメイクインストラクターの資格を持つほかフランスのスクールでポリネシアンマッサージの技術も取得。二児の母。

もみ処 癒心

大分市下郡東2-6-19
☎090-6421-1840
<https://www.instagram.com/yushin.oita/>

世界一に輝いたゴッドハンドで 体も心ももみほぐすセラピスト

今年4月にフランスで開かれたセラピスト世界大会に出場し、オイルトリートメントの技術で世界一に輝いた。フランスのエステテックスクール主催による大会で、世界各地から出場したエステティシャンが審査員の前で30分程度の施術を披露し、動きや流れの美しさ、筋肉へのアプローチの仕方などを競う。オイルトリートメントだけでも何千もあるという手技をどう組み合わせるかも審査の対象となる。初めての出場で見事に優勝の栄冠を手にした長野さん。「まさか優勝するとは」と振り返りつつ、凱旋帰国から数カ月を経て、その眼差しはすでに来年の2連覇へと照準を合わせている。

彼女の しごと

働く現場から

撮影/杜多洋 取材・文/小川尚子